

たまの版 CCRsea 懇談会 第 1 回会議 議事概要

日時	2017年2月2日(木) 13:30-15:00
場所	玉野市役所3階 特別会議室
出席者 (敬称略)	<p>【懇談会委員】 ◎は座長</p> <p>◎学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長 五嶋 幹雄 玉野市観光協会 専務理事 池田 敦子 玉野市社会福祉協議会 総合福祉課長 三宅 啓之 UNO I C H I 実行委員会 営業部長 福嶋 栄里子 ※玉野商工会議所青年部 会長 岡崎晋典氏は欠席</p> <p>【事務局】</p> <p>玉野市政策財政部 部長 加藤 翔大 同 総合政策課課長 中嶋 英生 同 総合政策課課長補佐 小笠原 隆文 同 総合政策課行政管理室・定住推進室室長 山平 智宏 同 総合政策課中心市街地活性化対策室主事 佐々木 裕介</p> <p>【平成28年度生涯活躍のまちに係る調査研究業務 受託者】 株式会社日本総合研究所 黒澤隆</p>
配布資料	<p>たまの版 CCRsea 懇談会 第1回会議 次第・配布資料一覧</p> <p>資料1: たまの版 CCRsea 懇談会委員名簿</p> <p>資料2: たまの版 CCRsea 懇談会設置要綱</p> <p>資料3: 玉野市審議会等の会議の公開に関する要綱</p> <p>資料4: 生涯活躍のまち「たまの版 CCRsea」基本構想中間報告資料</p> <p>資料5: 策定スケジュールについて</p>

議事：

1. 開会

2. 開会あいさつ

3. 委員の紹介

4. 座長選出

5. 懇談会の運営方法について

6. 議事

(1) 策定スケジュールについて（資料 5）

委員 A : 事業推進主体公募について、募集要綱において対象事業者の地域を限定するののか。

事務局 : 地域にかかわらず、広く募りたいと考えている。

(2) たまの版 CCRsea 基本構想の策定について（資料 4）

委員 B : 11 項の大学等の連携については、どこを想定しているののか。

事務局 : これまでの付き合いのあるところも含めつつ、幅広に検討したい。

委員 C : 2 項の移住について、玉野市に移住してくる人は現時点で何人いるののか。

事務局 : 移住者の定義の仕方により異なるが、岡山県の定義に基づくならば、年間 20 人程度で、近年増加傾向にある。

委員 D : 3 項のコンセプトにおけるアートの記載について、瀬戸内国際芸術祭が 3 年置きに実施されているが、玉野アートも設置されていたため、玉野らしさ（海、港、船）という点を盛り込んだアートでの取組を行ってほしい。

委員 E : 10 項の実現に向けて必要な機能について、元気な間だけでなく、身体が衰えてきても活躍できるようなまちであるべきで、そのような取組を盛り込んで欲しい。身体が衰えとなおさら、医療・介護が必要になってくるため、アートなどとは結びつけにくいかもしれないが、こういった機能をしっかり確保していただきたい。

委員 F : 19 項の移住元の検討において、東京都中央区にある大学との連携について調べてみたが、なかなか候補になりそうな大学が見当たらなかった。

一方で東京都中央区には「みずと緑の触れ合いマップ」というものがあり、回遊ルートを 6 つ設定するなど、回遊性を高める仕組みがなされており、参考にしてもよいのではないか。また、箱根にある彫刻の森美術館の

ように、取組アートを意識した回遊という取組なども、参考にしてほしい。瀬戸内国際芸術祭が開催されても、なかなか玉野市内を回遊してもらえない原因としては、街並み・景観が視覚に訴えるものがないためではないか。滞在したい、回遊したい、と思わせる街並み・景観の整備が望ましいのではないか。今回はソフト面の予算執行という性質上、施設整備ではなく、取組で対応していく必要がある。例えば福山市にある「三世代テーマパーク みろくの里」の中に「いつか来た道」という区画があるが昭和期の郷愁を掻き立てられるような外観をしている。玉野では造船業華やかな頃を思い出すことができるような街並みの形成について、商店街と連携しながら、進めていくべきではないか。まずはソフト面の予算の中で、そのようなパースを描いて、ハード面の整備のための財源の確保については引き続き市側で動いてもらう中で、実現してはどうか。

委員G : 魅力的なまちづくりに活かせる貴重なご意見と思われる。

委員H : イベントを実施した際、イベント単発で終わってしまい、長期的な効果がない点について課題として感じていたため、たまの版 CCRsea により持続的な賑わい効果が現れることが望ましい。

12 項のヘルスケアサービスの展開において、サイクリングの取組も必要だが、高齢者にはウォーキングが有効ではないか。

委員I : 3 項のコンセプトにおける移住者の地域コミュニティへの参加については、地域住民と一緒に汗をかくことで初めてコミュニティに溶け込めるのではないか。そのような取組について検討してほしい。

委員J : 昨年の夏に、移住者の方を中心にビアガーデンを開催していたが、大変面白かった。しかし、地元の人がおらず、玉野市に居ないような錯覚に陥った。このような取組に、地元の人も参加してほしい。例えば、お酒でも飲めるような交流会があると、地元の人と交われるのではないか。

委員K : 玉野市の学生に聞いても「玉野は何もない」、という回答が返ってくる。かつての華やかな時代の築港銀座を取り戻すという取組も進めていけたらと思う。築港銀座近くに、たまの湯があるので、相乗的な賑わい効果も期待できるのではないか。また、渋川にも水族館があるので、そのような施設と連携した取組があると、より特徴が出てくるのではないかと感じた。

身体能力が低下しても、安心して暮らしていける医療・介護機能があると、より効果的に人が集まるのではないか。

委員L : 玉野市は、渋川、八浜、王子が岳と市域が広い。こういった宇野以外の市域についても、賑わい創出の取組について検討してほしい。八浜にしても渋川にしても観光振興に従事する方々が、70 代と高齢化しているが、皆元気に取り組んでおり、まさに元気な高齢者そのものである。そのような

方々と市域全体で交流を活発化することが、よいのではないか。

委員M : 移住後のアクティブな生活について多く盛り込まれているが、移住先の魅力として、移住後に安心して生活できる環境について訴えていく必要もあるのではないか。

また、郊外の高齢者のような交通弱者の方には自宅から目的地まで送迎できるようなデマンドタクシー等の交通対策についても取組が必要と考える。地域包括ケアシステム等との連携も検討して行く必要があるのではないか。

委員N : 障害者についても、同じことが言える。

委員O : 議論を整理すると、観光面と医療・介護面についてコメントが出てきている。観光面については、市内を回遊できるようなルート設置が必要である。医療・介護面については、安心を盛り込めるような取組を検討してほしい。

7. その他

事務局 : 第2回懇談会開催を3月後半に予定している。日程については後日調整させていただきたい。

8. 閉会

以上